



広瀬研だより ちょっとトリビアな無脊椎動物の話

Text= Rie Nakano

Photo= Atsushi Ono, Rie Nakano

第5回
生物研究と
フィギュア作りの
深い関係

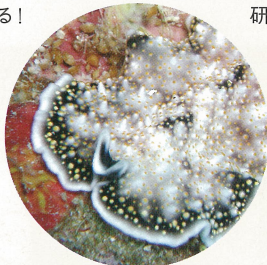
先 月はウミウシだったので、今回はウミウシとよく似た生物、ヒラムシをご紹介します。

ただし似ているのは外見だけで、ヒラムシとウミウシは全く違う生物だ。ヒラムシは扁形動物門・渦虫綱・多岐腸目に分類される。いっぽうウミウシは軟体動物門・腹足綱・後鰓亜綱に分類される……といってもピンと来ないと思うので、簡単に言ってしまう。ヒラムシはプラナリアの親戚、対するウミウシは巻き貝の仲間だ！

プラナリアは見たことがない？ たしかにプラナリアは淡水産で、ダイバーにはなじみがないですからね。ではもっとわかりやすい違い。ヒラムシには血管や鰓がなく、体に栄養や酸素を運び渡らせるのを拡散に頼っている。一方ウミウシは「後鰓類」と言われるくらいだから鰓がある。おおざっぱな仕組み（開放血管系）だが血管もある。

血管なんか解剖しないと見えないよ！ とお怒りの諸兄のために、さらにわかりやすい違い。ヒラムシの口は腹部の真ん中にある！ 肛門がなく口が肛門を兼ねている！

体のつくりはこれほど違う。でも「細かいことはどうでもいいの。ウミウシもヒラムシもキレイだから好き♥」というダイバーはけっこう



07

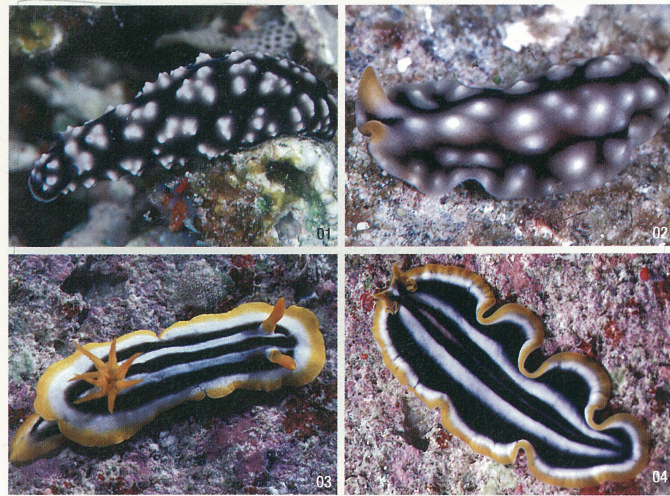
文=中野理枝

Profile>> '87年OW取得。'96年あたりからウミウシに目覚める。小野篤司さんの『ウミウシガイドブック1』『沖縄のウミウシ』を編集。「本州のウミウシ」を編集・執筆。'09年4月、琉球大学大学院 理工学研究科 博士後期課程に進学。雑誌・書籍の編集や執筆の仕事の続けながら広瀬研究室にてウミウシ研究に邁進中。

監修=広瀬裕一
琉球大学理学部海洋自然科学科教授・理学博士

Profile>> '91年理学博士取得。その後3つの大学を転々として、'97年より琉球大学に勤務。当研究室には粘土ではなくヌイグルミで勝負する学生もおります。本誌上でお披露目はあるか？

➡www.geocities.jp/lissoclinum/TunicataJ

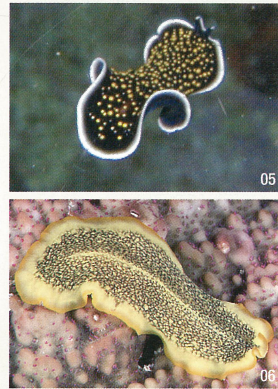


(01) コイボウミウシ。(02) コイボウミウシ似のヒラムシ。(03) タイハイヨウイロウミウシ。(04) タイハイヨウイロウミウシ似のヒラムシ。毒を持たない動物が毒のある動物（この場合はウミウシ）に姿を似せることをベイツ型擬態という。そのわりにヒラムシは魚によく食われている。(05) 遊泳中のヒラムシ。この撮影直後、ペラに食われた。(06) ウミウシに似ていない種も。(07) 頭部らしき場所にある突起は触角ではなく触葉という。いずれもPseudoceroftidaeニセツノヒラムシ科。写真01, 02, 03, 04, 06=小野篤司（ダイブサービス小野にいいい）05, 07 =中野理枝

多い。かくいう私も「本妻はウミウシで愛人はヒラムシ」と思っている。ここでいう愛人とは「本気になったらヤバい研究対象」のことだが、ヒラムシに本気になるのはたしかに危険。なぜなら死んだらあっという間に溶けてしまうからである。溶けるとは標本作製が困難＝解剖が困難ということで、それゆえヒラムシの研究はあまり進んでいない。研究者も少ない。学名がついておらず「ヒラムシの仲間」と呼ぶしかない連中ばかりだ。

事 情を知るにつけ「愛人程度にしないとヨカッタ」と私は思ったものだったが、その手強い相手に本気になった後輩がいる。名前は亀川奏子さん。「亀川さんはウミウシも好きなんでしょ？ なんでヒラムシなわけ？」

「やってる人がいなかったからです！」
内肛動物といいヒラムシといい、広瀬研の女子は皆果敢である。しかし広瀬先生のご専門はホヤだ。千葉県立中央博物館 分館海の博物館の奥野淳児先生がヒラムシにお詳しいが、奥野先生とてご専門は甲殻類である。そこで



彼女は独自にヒラムシ好きネットワークを構築し、情報や資料集めを励行。ヒラムシを溶ける前に標本にする方法は奥野先生から教わった。そして沖縄本島の真栄田岬で1年半、7属計23個体を採集して分類を試みた。卒業論文発表会

では、自作のヒラムシフィギュアを用いて見応えのある発表を行った。

と ところでこのフィギュア作り、何を隠そう、広瀬研の十八番である。広瀬先生の海洋実習では、無脊椎動物のフィギュア作りは必須。研究室にはフィギュア作りのための樹脂粘土やアクリル絵の具が当たり前のように置かれてある。「フィギュアは動物をあらゆる角度からじっくり観察しないと作れません。つまり、動物を知るひとつの手段として、フィギュア作りは有効なのです」(広瀬先生)

それゆえ広瀬研のメンバーは皆フィギュア作りが上手である。その中でも亀川フィギュアの巧さは群を抜く。研究室のいたるところに飾られた亀川フィギュアは、亀川さんが卒業した今もメンバーの心を癒し、訪れる人を驚かせている。



亀川奏子作・ウミウシ&ヒラムシフィギュア。触覚されて研究室のメンバー皆が研究そっこのけで真剣に樹脂粘土をこねていた時期があった。その時は広瀬研究室というよりも、広瀬工房の様相を呈していました。写真=中野理枝